



あれ!

「あれ!服こうたん。よう似合うでえ!えっ!980円だったん!上手に買うなあ!〇〇さんが着いたらそごうの服にみえるわ!」褒められた人は「ほうでえ」とにんまり『どや顔』とポーズ。「いや、そんなことないわ」と謙遜することなどしない。私の職場の朝礼前のひと時、毎日このような



町生 倉橋 智子さん

光景が見られる。女性13人、男性1人、平均年齢42歳。家でも世間でも褒められることなどなくなつた年ごろ、同病相憐れむといったわけではなく、ごく当たり前、自然に、恥じらいもなくお互いを褒め合うのである。「相手のいい所を探すことが上手じゃないと生きていくのが大変よね」そんなことを仕事や普段の生活から学び、いつし

かお互いの良い所を口に出して言うようになった。そのお陰で一日が気持ち良くスタートし、大変な仕事も笑顔でこなし、辛いことがあっても元気を取り戻してから家に帰ることができる。

もちろん、職員同士は大変仲が良い。いつも明るい雰囲気、昼食時は自分たちでもあきれほど会話が弾む。最初誰かがぼつりと言ったことから話が広がり、涙を流し、腹筋が痛くなるほどよく笑う。そして、

最後はお決まりのセリフ『ところで、最初なんの話だった』『さあ忘れた。でも前も同じこと言つてなかった?』何回も同じことで笑える自分たちにまた、笑いじわが深くなる。笑いは免疫力を高めるといわれているが、それは本当だと痛感している。素晴らしい同僚に恵まれ元気に仕事ができ、私つてほんま幸せ。さあ、今日も明日も楽しい一日が待っている。

次は、那賀川町の濱田由美さんをお願いします。

# 市民文芸

## 短歌

阿南市春季短歌大会作品

### 市長賞

香川ミヨ子  
降る雨に純白椿打たれつつ濁り  
ゆくなり春の深みへ

### 大会賞

西條 悦子  
臥す我を立たさんとする孫の手  
の昨日より今日優しくなりぬ

### 文化振興賞

中原 一  
いつまでも現にあるとは思わね  
ど高く盛りつぐ父母の仏飯

### 互選賞

臣永 悦子  
津波予想二十メートルのこの畑  
に豌豆の花の白き平穩

### 互選賞

山西 成彬  
谷川の水底まで陽の射して魚影  
すばやく春の立ちくる

### 入選

倉橋寿満子  
石門の水を渡ればかむなびの山  
へとさそふ落椿の道

### 入選

兼任ゆき子  
網かけしわが菜園に入りこみて  
猿は初成りのカボチャ盗めり

## 中学生短歌のポスト入選歌

原田 万葉  
春風が背中を押して歩き出す明  
日色の花咲かせてみよう

原田 綾乃  
春の風ささやくように流れてく  
友といえるのもあとすこしだよと

青木 沙織  
たけのこが春の日差しで伸びて  
いく私も伸びる心とからだ

黒川 勇磨  
春に成りのどかな風に花開く僕  
の背を押す光も風も

山本 歩未  
君とならどこまでだつて走れる  
よあの時君に出会つたから

相原 涼  
舞い上がる桜の花びらゆらゆら  
と青い大空今日も染めゆく

折野 未歩  
登下校毎日出会う梅の木の甘い  
香りが町に広がる

中島 佳汰  
春が来た春風吹いて木がゆれる  
動物たちも起きはじめるよ

## 俳句

阿南市俳句連合会選

島 玲子  
アラビアの海に漂流星涼し

宮崎三千代  
寺苑にも絵天井にも牡丹かな

勝瀬 千津  
雨を飛び来て子雀の毛繕ひ

小谷 史井  
新緑やふち瀬に上る魚の影

藤崎 稔  
夏草を刈りて絆の避難道

撫養 浪路  
母の日や荷物あまたに島渡船

坂東美恵子  
ビルの窓風待つ小さき鯉職

数藤 恵子  
箸初めの膳に祝ひの桜鯛

田村 幸江  
木下闇少しかたむく百度石

古川北斗星  
出稼ぎの林檎花摘み作業する

## 川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

野村 敏子  
糠床が私の心までぬすむ

持木 寿栄  
代替わり自己紹介がいる法事

橋本 征介  
恐妻家すまんすまん後黙る

岡本 福笑  
三分も黙っていたら虫が湧く

西田 修身  
我が儘も孫には甘い好々爺

